



学校だより

東京都立府中けやきの森学園

〒183-0003 府中市朝日町 3-14-1

TEL 042-367-2511 FAX 042-369-8476

<https://www.fuchu-keyaki-sh.metro.tokyo.jp>

令和8年1月30日(金)発行 第12号

一年のまとめの時期に

副校長 宮本 光司

東京の冬は1月の下旬が最も寒いようです。2月に入り立春を過ぎると、寒さも徐々に緩んでくる気がします。これからの時期、児童・生徒の学習は一年間のまとめに入り、教職員はこの一年を振り返り、児童・生徒の成長を実感します。

11月にお願いした学校評価アンケートへの御協力をありがとうございました。年明けにも再度お願いのお知らせをお配りし、回答率こそ昨年度より低かったものの、多くの御意見をいただくことができました。アンケート結果の詳細は3月の全校保護者会でお伝えします。

毎年のアンケート結果に基づき、「学校運営連絡協議会」という外部の多数の有識者を委員とする会議で、本校の教育活動への提言が行われます。昨年度の提言では、7年度に向けて以下のような3点の成果と3点の課題が出されました（昨年度全校保護者会で報告）。

＜成果＞ ①個別指導計画の説明と課題の共有。②学校だよりや学校ホームページの充実。③警察署や消防署、各家庭と連携した安心・安全な学校づくり。

＜課題＞ ①ウェルビーイングを目指し、児童・生徒が自分らしく成長していくための学びの充実の推進とカリキュラム研究の推進。②ギガ端末やスマートスクール端末の効果的な活用の推進。③教職員の働き方改革の推進。

これらの課題の中でも特に、「ウェルビーイング」は本校の教育のキーワードです。ウェルビーイング実現の一環として全校で取り組んだ、野菜くずからの堆肥づくりによるSDGs学習は、特色ある学習として東京都で紹介されました。中庭にコンポスト「作太郎」を設置した9月以降は、児童・生徒が連日野菜くずを持ち寄り、シールを集め、堆肥で育てた野菜などと交換し、活発な学習となりました。両部門の各学部では、「理科」「総合」等の授業で環境についての学習も進めました。

児童・生徒自身が身近に関われることが、よい学習活動になるのだと、改めて感じます。堆肥づくりプロジェクトが、身近な環境に関心を持ち、自分の周りに働きかけていくきっかけになってほしいと思います。

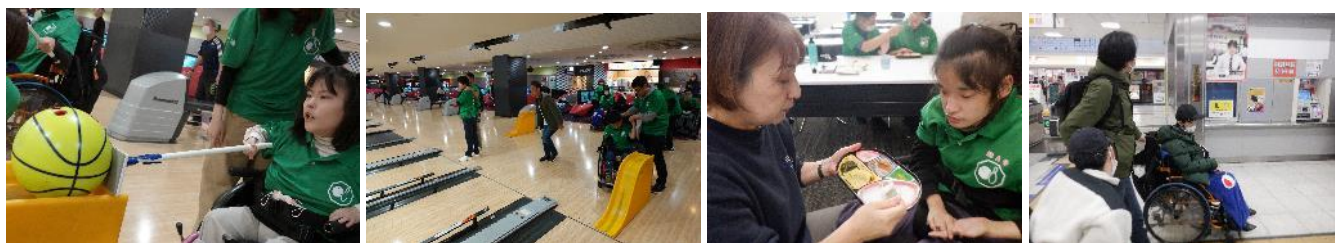
今年度の学校経営については、年度末に校長より御報告します。引き続きどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

肢体不自由教育部門高等部 3年卒業遠足「ボウリング」

肢体不自由教育部門高等部 教諭 宮澤 天志

冬晴れとなった12月16日(火)、高等部3年生はラウンドワン府中本町店へ卒業遠足に行きました。目的はボウリングです！これまでの学校生活の中でボウリングを体験する機会はありませんでしたが、実際のボウリング場でボウリングを行う経験はどの生徒にもありませんでした。当日は学年全員で協力してデザインしたオリジナルポロシャツを着て、各レーンに分かれてボウリングスタート！スロープや伸縮式のモップを補助具として使いながら、生徒それぞれの得意な方法で投球していきました。投球に慣れてくると倒すピンの数やスペアなども増え、ストライクを出す生徒もいました！生徒も教職員も皆で盛り上がりながら、本物のボウリングを楽しみました。

ボウリングで身体を動かした後は、武蔵府中ル・シーニュの6階でお弁当を食べ、京王線に乗って飛田給まで行き、そこからゆっくり歩いて学校へ戻りました。生徒に感想を聞くと「とても楽しかった」、「意外とボウリング場でもピンを倒すことができる」と好評でした。ぜひ、今回の経験を生かし、卒業後も家族や友達とボウリングを楽しんでもらいたいと思っています。



肢体不自由教育部門音楽鑑賞教室「アフリカンミュージック」

肢体不自由教育部門小学部 主任教諭 藤田 隆之

12月18日(木)に「アフリカンミュージック」による「アフリカンJOYコンサート」を鑑賞しました。本場アフリカの楽器の演奏や歌を楽しみました。大迫力の歌もさることながら、アフリカの場所や地域の特徴、アフリカの動物がどこで見られるかなど、アフリカの紹介を聞いたり、教員もアフリカの魔よけの効果がある「アフリカンペインティング」をしてもらったりするなど、会場にいる全員で楽しむことができました。また、中学部・高等部の回では、アフリカのために私たちができること、SDGsにも触れ、楽しむだけでなく、文化、地球環境についても学ぶことができました。

本場アフリカのミュージシャンがステージから降りてアフリカの伝統楽器である「ジャンベ」を叩いたり、「パタパタ」という曲では、演者のまねをしてダンスをしたりと参加しながら楽しむことができました。



一人1台端末を活用するために

情報部 主幹教諭 松島 宏樹

本校では、GIGA端末やスマスク端末などの一人1台端末をより効果的に活用できるよう、夏季休業や冬季休業をはじめ、毎月、教員向けのデジタル端末活用研修を実施しています。児童・生徒が学習の中でデジタル端末を活用するためには、まず教員自身が体験し、授業のどの場面でどのように使用すると効果的かを考えることが重要です。研修では、外部専門員である帝京大学の金森克浩教授に「アプリケーション」、「各種デジタル教材」について、ICTアドバイザーの渡邊貴子先生には、「入力支援機器」について御指導をいただきました。実際に端末や機器を操作することで、授業改善につながる多くの気づきが生まれました。

タブレット端末のアプリケーション「Drop Tap」を、コミュニケーション支援やスケジュール把握のための見通し支援ツールとして活用する事例も増えてきています。また、デジタルブックの機能をもっている「デイジー図書」の整備を進め、児童・生徒が各自の端末から好きな本を選び、いつでもどこでも読書できる環境を整えました。引き続き、ICT機器を一つの教材・教具として効果的に授業に取り入れるよう研修を推進しています。



デジタル教科書活用の推進

研究研修部 指導教諭 田中 美成

東京都教育庁指導部の「令和8年度学習者用デジタル教科書・デジタル教材等を用いた指導方法の改善事業」の研究指定を受け、肢体不自由教育部門の準ずる教育課程で、23名の児童・生徒が紙の教科書と学習者用デジタル教科書を併用して学習しています。

研究指定も4年目となり、中学部・高等部では生徒が使いこなす様子が見られます。デジタル教科書のよさはたくさんありますが、ここではその一部を御紹介いたします。

デジタル教科書

5つの特徴

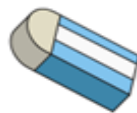
様々な学びのかたち

紙の教科書、デジタル教科書、具体物、ワークシートなど、様々な教材の利点を生かして授業を進めます。

01

操作の時間を思考の時間に

画面をスワイプ（指を滑らせる）することで、次のページを開けます。書いた文字やアンダーラインを一瞬で消せます。操作が楽になって、考えることに時間とパワーを使えます。



02

自分に合った学習方法で

書いてある文字を音声で読み上げたり、漢字にルビを振ったりできます。画面表示を白い背景に黒い文字にも、黒い背景に白い文字にもできます。学習が進みやすい環境を設定できます。



03

動画・音声教材が豊富

外国語では、ネイティブの音声を読み上げます。小学部生活科では観察できなかった昆虫の鳴き声も音声教材で学習できます。理科の実験動画では、スロー再生や拡大表示で細かいところまで確認できます。



04

タブレットの便利機能

画面の2分割表示機能を使って、違うページを1画面で表示して、比べられます。書き込むときに画面を拡大して書きやすい大きさにして、書き終わったら縮小すれば、きれいに書き込むことができます。



05

どんな姿勢でも学べる

タブレット端末を、自分に姿勢に合わせた傾きで固定できます。横になった姿勢で学習したいときも、固定具を使えばどんな角度でも固定できます。体調に合わせて学習姿勢を選べます。

